

### マタイの福音書 3章

**そのころ、バプテスマのヨハネが現われ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。(3:1)**

キリストの知られざる年月です。私たちは今、ナザレへの帰還から彼の公生涯の初めへと飛び越そうとしています。何も記録されていない年月が28年から29年あります。

外典の中には、イエスの幼少期や少年時代の話を含んでいると伝える書があります。翼の折れた小鳥を癒したというような空想的な話です。

主は、キリストの生涯のその部分は知られないままにしておくのが適切だと思われました。聖書が沈黙している所では、私たちも沈黙しておくのが最善です。ですから、私たちはこれらの年月を飛び越します。

一つの福音書にはイエスが12歳の時のことが少しだけ書かれていますが、イエスの少年時代について私たちが知ることができるのはそれだけです。別の福音書で分かるように、12歳の時点で、イエスは非常にまれな青年であったようです。

そこで、私たちは今、ユダヤの荒野で教えを宣べていたバプテスマのヨハネの話に飛びます。彼は言っていました。

**「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」と言われたその人である。〔つまり、バプテスマのヨハネこそが預言者イザヤが語っていた人です。〕このヨハネは、らくだの毛の着物を着、腰には皮の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった。(2:2-4)**

そのいなごがバッタの仲間の昆虫のことなのか、イナゴマメの実のことなのか、本当のところは分かりません。中には、それはイナゴマメの木に成る実だという人たちがいます。

それはヨシュアのパンと呼ばれます。それがイナゴだと言う人たちがいます。他の人たちはそれはバッタの仲間の昆虫だと言い、エスカルゴとかそういったものと同様に、それを珍味だと考える人たちがいます。

蓼食う虫も好き好きと言ったところでしょう。彼らは美味しいと言いますが、私には食べられません。私はむしろ何か別の方法でカロリーを摂取したいです。

**さて、エルサレム、ユダヤ全土、ヨルダン川沿いの全地域の人々がヨハネのところへ出て行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けた。しかし、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。(3:5-7)**

これが宗教学者たちに関するヨハネの意見です。

**「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。(3:7-8)**

悔い改めにふさわしい実を結びなさい。「ああ、私は悔い改めています」という人たちは大勢いますが、彼らの人生には悔い改めの実が全くありません。本当に悔い改めたというしるしが全く見られません。

悔い改めとは、本当に変わることです。人がその人生において本当の変化を遂げないなら、その人の悔い改めの真実味を疑ってよいでしょう。

そこでヨハネはこれらのパリサイ人たちや律法学者たちのことをまむしのすえたちと呼んで、非難しています。そして言いました。あなたたちが本当に悔い改めたことを示す実を結んでごらんください。

他の人たちは悔い改めて洗礼を受け、罪に背を向けていました。この人たちもやって来ましたが、ヨハネは言いました。「ダメ、ダメ。あなたたちには洗礼を施しませんよ。悔い改めにふさわしい実を見せてもらいましょう。」

私のところには、申し訳ないことをしたと謝ってくる人たちがいましたが、彼らは変わりませんでした。

ある人は、私から数千ドル（数十万円）をだまし取りました。彼は私のところに来て「どうか赦してください。本当に申し訳ない」と言いましたが、1セント（1円）も返してくれませんでした。私はバプテスマのヨハネのような気分になりました。「じゃあ、あなたの悔い改めのしるしを見せてもらいましょう。本当に申し訳ないと思っているなら、悔い改めにふさわしい実を結んでごらんください。」

あなたの悔い改めにふさわしく、それに一致する実を結びなさい。

**『われわれの先祖はアブラハムだ。』と心の中で言うような考えではいけません。（3:9）**

彼らはそのことをすごく誇りにしていました。「われわれの先祖はアブラハムだ。」彼らは、それが自然に救いを成立させるものだと思っていました。

ちょうど大勢のアメリカ人たちが、アメリカ人であればクリスチャンだと思っているのと同じです。でも、そうでしょうか。「あなたは救われていますか？」「いやあ、もちろん。私はアメリカ人ですよ。」

「私は国旗に忠誠を誓います。その中で『神のもと』って言ってませんか。私が異教徒か何かだともお思いですか。」

ユダヤ人もそれと同じ態度でした。「私の先祖はアブラハムだ。」彼は、それが大した事だと思ってはいけなと言いました。「神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことができになります。」

**斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。（3:10）**

ヨハネの福音書の第15章で、イエスは木と枝について語られます。「わたしの枝で実を結ばないものは取り除かれ、人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。その時は来ています。」

イエスは言いました。「あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。」（マタイ 7:16）ヨハネは「実を結びなさい」と言っています。

皆さんは、イエスが弟子たちとして、空腹を覚えられた時に、いちじくの木を見られたのを覚えていますね。彼らがそこに行ってみると、全く実が成っていませんでした。

イエスはそのいちじくの木を呪われました。翌日、その道伝いにオリーブ山に戻ってきた時に、弟子たちが、イエスがその前日に呪った木を見ると、その木は一夜にして枯れてしまっていました。

彼らは言いました。「主よ。昨日あなたが呪われた木をご覧ください。うわあ。あれはもう萎えて枯れてしまっていますよ。」いちじくの木はイスラエルの国の象徴でした。主はイスラエルの国が実を結ぶだろうと見ていたのです。

バプテスマのヨハネはここで「斧もすでに木の根元に置かれている」と言っています。それはイスラエルそのものに対してです。実を結ばない木は切り取られます。

使徒パウロはローマ人への手紙11章において、神はもとの性質に反した枝をつぐために、もとの枝を切り取られたと、私たちに教えてくれます。異邦人である信者が木の豊かな養分とともに受けるためです。

イスラエルの国は、自らの拒んだために拒絶されました。神は彼らにメシアを与えました。神は彼らにチャンスを与えました。彼らはそれを拒絶したのです。

そうして福音は異邦人にもユダヤ人にも同様にもたらされました。あなたが異邦人であっても、ユダヤ人であっても、道は一つしかなく、それはイエス・キリストによるのです。

ヨハネは言いました。

**私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。（3:11）**

ヨハネは、自分自身の証人にはならず、その後から来られる方、実にイエス・キリストの証人となる先駆者となりました。

「主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。」（マタイ 3:3）と荒野で叫ぶ者の声です。

彼は、人々の心をキリストの訪れに備えていました。それが彼の務めでした。ヨハネの福音書はバプテスマのヨハネのミニストリーを詳述しています。

ですから、私たちはヨハネの福音書を学ぶときに、このバプテスマのヨハネという興味深い人物について、さらに深く学ぶこととなります。

イエスについて、彼はこう告げます。

**手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、（3:12）**

脱穀場には、箕を持って来て、脱穀場の床をあおいで、殻を吹き払います。麦だけが床の上に残るようにするためです。

そこで彼らは箕を持ってやって来て、殻を吹き払うために隅々まで脱穀場を箕でふるいます。ですから、情景としては、キリストが箕を手にして、彼の脱穀場をすっかりきれいにし、彼の麦を集めて倉に入れます。

殻を消えない火で焼き尽くされます。」さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに来られた。しかし、ヨハネはイエスにそうさせまいとして、言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受けるはずなのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。」ところが、イエスは答えて言われた。「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」そこで、ヨハネは承知した。

(3:12-15)

ヨハネは反論しましたが、イエスは彼の反対を押しやり、ご自身が模範を示すことが必要なのだと告げました。

ペテロは「キリストは、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました」(1ペテロ 2:21)と言いました。

イエスには悔い改めるべきことが何もなかったので、ヨハネは躊躇しました。しかし、実際にはイエスは私たちの模範としてそうされていたのです。そして、それは告知させます。

浸礼(洗礼)は何を告知させるのでしょうか。私が2~3週間前に話したことを覚えていますか。浸礼は、物質よりも霊の方が勝っていることを告知しています。肉の命に勝る霊の命です。

イエスはそのことを宣言しなければならなかったのであり、そのために、世は彼に怒りを覚えたのでした。彼らは肉に従って、また肉の願望に従って生きていましたが、イエスが、霊的な人生は肉的な人生に勝ると告げたからです。

初めから終わりまで、それが神のみことばのメッセージなのです。肉の命よりも霊の命が勝っていると。

それが、浸礼の表すものです。肉の命、古い命、古い性質、古い野望、古い願望の死。それらが死んで埋葬されます。

そして水の中から新しい命が生まれて来ます。霊の命です。それは肉の命に勝るものです。

こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。(3:16)

イエスが水から上がられると、聖霊が彼の上に来られて、彼の命に油注がれました。

また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」(3:17)

息子のことを誇りに思う御父は、喜びを隠せず、「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」と言われました。

イエスは言われました。「わたしがいつも、父のみこころにかなうことを行なうからです。」（ヨハネ 8:29）ですから、彼は完璧な人生を生きられました。完全成就の人生です。

黙示録4:11で、長老たちが御座の前で神に栄光を捧げ、ケルビムが8節で「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後に来られる方」と告げ、24人の長老たちが香のいっぱい入った金の鉢を取り、それらを水晶に似たガラスの海の前に投げ出して、ひれ伏して言います。「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」

神があなたを造られた理由が説明されています。神のみこころ（喜びの）ゆえに、です。

「そんなの嫌だ」と言っても、あいにく、あなたにはそれを変えることはできません。

それが現実なんです。それに抵抗すれば、人生が思い通りにいかなくてイライラするだけです。でも、従順になって、それを受け入れれば、あなたの人生は素晴らしく充実したものとなります。

人がイエスのように「私はいつも御父の喜びにかなうことを行います」と言うことができれば、あなたの人生は完璧です。

神が証しされています

**「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」（3:17）**

いいですか。イエスが浸礼を受けておられます。聖霊が彼の上を下って、天から御父の声が告げます。「これは、わたしの愛する子。」ここに三位一体が見られます。父と、子と、聖霊です。